

斐伊川水系 生態系ネットワークによる 大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会 設立趣旨

斐伊川水系は、中国山地から出雲平野へと流れ出る斐伊川や神戸川を始め、ラムサール条約登録湿地の宍道湖・中海など、国際的にも著名な水辺環境に恵まれた流域により構成され、我が国を代表するガン類・ハクチョウ類・ツル類・コウノトリ・トキ等の大型水鳥類が安定的に生息可能な潜在性を有する国内有数の一級水系です。

治水・利水・環境の観点からの水系内の各種河川整備の取組みに一定の成果が得られつつある現在、全国的・国際的にも注目され得る豊かな水辺環境や生物多様性を最大限に活かした魅力的な川づくり・地域づくりを新たに展開させるべき絶好の時期を迎えているものと考えられます。

そこで斐伊川水系においては、良好な生態系の指標として、また多くの人々へのアピール性が高い大型水鳥類に着目し、多様な主体の連携と協働に基づく河川を軸とした流域全体の生態系ネットワークの推進を図り、『環境の世紀』にふさわしい地域活性化と経済振興を達成する地域づくりの実現が期待されます。

こうした背景を受けて、生態系ネットワークの形成による大型水鳥類の舞う魅力的な流域づくりへの効果的な実現方策の検討を目的とした「斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」を設立します。